

下水道の多様な役割



せいかつかんきょう ほぜん
生活環境の保全
暮らしを清潔に



すいしつほぜん
水質保全
海や川をきれいに保つ



じゅんかんがたしやかい こうけん
循環型社会への貢献
下水汚泥の再利用



しんすいたいさく
浸水対策
雨からまちを守る



だつたんそ こうけん
脱炭素への貢献
下水のもつ熱による
雪処理など

札幌市下水道事業100周年 1926年 2026年

札幌市下水道の あゆみ



次の100年へ、
つながる下水道

札幌市下水道事業100周年記念 ロゴマーク・キャッチフレーズ



SAPP
RO

100周年記念ホームページ



企画・編集：札幌市下水道河川局経営企画課
☎011-818-3452

さっぽろ市
02-101-26-1343
R8-2-955

さっぽろ下水道100年のあゆみ

札幌市の下水道は大正15年の計画着手から令和8年に100周年を迎えました

1926年 下水道事業の始まり

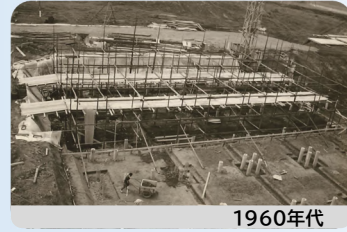
雨水の排除を主な目的とし、札幌市の下水道事業が始まりました。当時は、市街地の雨汚水を排除するための管路事業がほとんどでした。



1920年代
管を埋める工事の様子

1950年頃～ 生活環境の改善、水質保全

この頃は工場排水や生活排水をほとんど河川にそのまま流していたため、河川の汚染や周辺住民の健康被害を誘発していました。生活環境の改善、河川などの水質保全のため、下水処理場の運転を開始しました。



1960年代
下水処理場(創成川水再生プラザ)建設の様子



1950年代
豊平川の様子



1980年代
汚泥処理施設(西部スラッジセンター)建設の様子



1980年代
下水汚泥の建設資材への有効利用

1970年頃～ 下水道整備の加速

1972年の札幌冬季オリンピックの開催を契機として、下水道の整備が加速しました。1990年代には下水道普及率が99%を超えるなど、多くの人が下水道を使用することができるようになりました。



1980年代
豊平川にサケが遡上する

1980年頃～ 新たなニーズへの対応

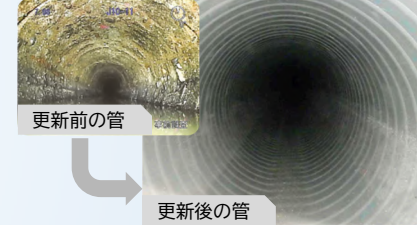
変化する社会情勢に対し、下水汚泥の減量化・有効利用、高度処理水を活用した河川のせせらぎの回復、下水熱を利用した雪処理など、下水道のポテンシャルを活かした様々な取組が進められました。



1990年代
厚別融雪槽の運転開始

2010年頃～ 拡張から更新の時代へ

戦後の急激な人口増加や札幌冬季オリンピック開催を契機として集中して整備したことから、老朽化した施設が増加しました。下水道の機能を将来にわたって維持するために、施設の適切な維持管理と、計画的な更新が重要となりました。



更新後の管
下水道管の更新イメージ



1990年代
“高度処理水”を活用した枯渇した河川のせせらぎ回復(安春川)

2026年
100周年

次の100年へ、つながる下水道

下水道施設の老朽化や自然災害の頻発化など、状況が変化中、暮らしを支える下水道を未来につなぐため、札幌市下水道ビジョン(2026-2034)を策定しました。地球環境保全に貢献しながら、着実に施設の改築などの取組を進め、下水道を未来へ引き継いでいきます。



札幌市下水道ビジョン(2026-2034)



詳しくはホームページへ！



下水道の役割と暮らし

下水道は、市民の安全で快適な暮らしと良好な環境を守り、社会経済活動を支える必要不可欠なライフラインであり、生活環境の改善や浸水の防除のほか、雪処理など多様な役割を担っています。



良好な生活環境を保ちます



河川や海をきれいに保ちます



浸水から街を守ります

下水道の役割・仕組みについてもっと知りたい方は…
「そこが知りたい！！わたしたちの下水道」
のパンフレットをおすすめ



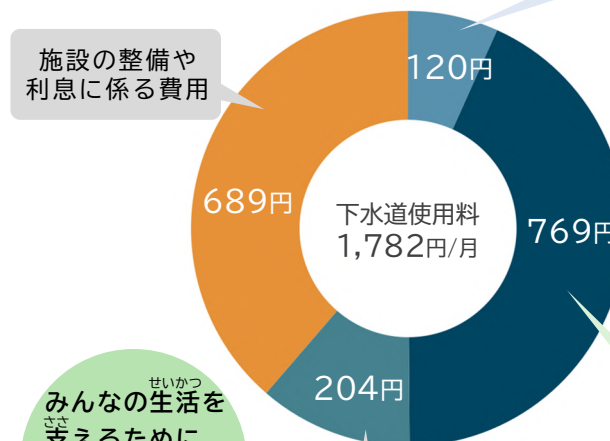
<https://www.city.sapporo.jp/gesui/pamphlet/sokoga.html>

下水道のしごと

汚水や雨水は、下水道管を通して水再生プラザなどの処理施設に流れていきます。処理施設は24時間365日休まず稼働しており、常に機器の操作・監視、水質分析等による処理状況の確認を行っています。また、機能を維持するために、下水道管や水再生プラザの設備等の点検・調査・修繕を行っています。

下水道使用料の使い道

例：1か月の使用水量20m³
下水道使用料1,782円(※)
※使用料は令和8年10月以降の金額



下水道管の点検・調査・修繕など



水再生プラザの運転管理、電気代、点検・調査・修繕など

